

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	森田 望
主論文の題目 および 掲載誌・審査委員名	題 目 Efficacy of Combined Thrombomodulin and Antithrombin in Anticoagulant Therapy for Acute Cholangitis induced Disseminated Intravascular Coagulation. （急性胆管炎に合併した播種性血管内凝固症候群に対する抗凝固療法におけるトロンボモジュリンとアンチトロンビン併用の必要性）
	掲載誌 Internal Medicine 2018; (in press)
	主査 國島 広之 副査 木田 圭亮 副査 榎本 武治
[論文の要旨・価値]急性胆管炎に併発する播種性血管内凝固症候群（DIC）に対する recombinant human soluble thrombomodulin（rTM）に、Antithrombin（AT）併用の必要性や有用性は明らかではない。2010年4月から2017年12月に急性胆管炎に合併したDICに対し診断時からrTMが投与され、胆管ドレナージ未施行、悪性腫瘍およびDIC診断時のATⅢ値が70%以上の症例を除外した56例を対象とした。rTM単独で治療を行った16例（rTM群）および、rTMとATを併用した40例（rTM+AT群）において後方視的に比較検討した。本研究は生命倫理委員会の承認を得て施行した（第3929号）。統計解析は、2群間比較にはχ^2二乗検定、Fisherの正確検定、Welchのt検定を用いた。両群の患者背景は同様で、Day9におけるDIC離脱率は、rTM群、rTM+AT群でそれぞれ100%、95.1%と差はなかった。DICスコアは、Day3、Day5、Day7、Day9においてrTM群が有意に低値であった。SIRSスコアはDay1からDay9で両群間に差はなかった。血液検査値は、T-BilがDay3、Day5、Day7、Day9、CRPがDay3、Day5、Day7でrTM群が有意に低値であった。ATⅢはDay3、Day5でrTM+AT群が有意に高値であるものの、Day9では差はみられなかった。有害事象発生率および在院中死亡率は、両群で差はなかった。本検討では、良性疾患による急性胆管炎に合併したDICにおける胆管ドレナージ施行例では、rTM単剤にて良好なDIC改善が期待でき、必ずしもATを併用する必要はないと考えられた。今後の我が国における急性胆管炎に併発するDIC治療においても極めて重要な研究であり、十分に学位に値すると判断した。	
[審査概要] 審査は主査、副査2名および2名の陪席のもと行われた。プレゼンテーションおよび質疑応答が行われた。審査のなかでは、1. 急性胆管炎に併発するDICに対するrTMとAT、2. 検討施設におけるドレナージを含む診療体制、3. 国内外のDIC診療におけるATの位置づけ、4. 今後わが国における臨床への波及性・コストなど多岐にわたる質問が行われ、申請者は真摯かつ的確に回答した。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 背景から考察まで大変分かりやすく練られた構成の発表であり、申請者は本研究に関する幅広い知識・学識を有すると判断した。研究発表、質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、誠実で大変礼儀正しく、学位授与に値する人物であると判断した。英語読解力は英文文献の一部を指定し、その場での和訳により十分な読解力があると判断した。	